

令和4年9月1日

三木市議会
議長 堀 元子 様

民生産業常任委員会
委員長 板東 聖 悟

行政視察報告書

下記のとおり委員会行政視察を実施いたしましたので、会議規則第107条の規定により報告します。

記

1. 参加者

板東聖悟（委員長）、大西秀樹（副委員長）、泉雄太、
松原久美子、藤本幸作 計5名

2. 視察内容等

日 時		場 所	内容及び対応者
7月27日	13:00 ～ 15:00	新潟県 加茂市	のりあいタクシーについて (対応者) 健康福祉課（福祉事務所長） 課長 藤田 和夫 加茂市議会 議長 滝沢 茂秋 議会事務局 局長 大野 博司 議会事務局 次長議会係長事務取扱 坂井 恵里
7月28日	10:00 ～ 11:50	新潟県 柏崎市	ひきこもり支援センター「アマ・テラス」について (対応者) 福祉保健部健康推進課長事務取扱 ひきこもり支援センター所長事務取扱 柳 正孝 福祉保健部健康推進課 ひきこもり支援センター副所長 阿部 一彦 議会事務局 主任 中村 陽子

3. 事前質問

加茂市

のりあいタクシーについて

① 予算内訳及び決算状況

- ② NCE、ドコモ、電脳交通、各社の経費
- ③ 利用実績及び年代別利用状況、利用者の反応
- ④ 平日と土日の利用状況比較
- ⑤ 導入の経緯及び導入前の公共交通の状況
- ⑥ 導入前後の公共交通に係る経費の違い
- ⑦ 市民バス運行時と利用者の変化
- ⑧ 市民バスをどれくらい減便したのか
- ⑨ 市民バスの運営状況とのりあいタクシー導入後の赤字削減効果
- ⑩ 民間事業のバスはなかったのか、ある場合の棲み分けは
- ⑪ 乗り合い率
- ⑫ 他の公共交通との関係性及び各社の意見と配慮
- ⑬ タクシー会社の負担経費（タクシー会社が増えても一社あたりの負担経費は変わらないのか）
- ⑭ 利用するにあたっての会員登録の有無
- ⑮ 市が考える今後の課題と市民からの要望
- ⑯ 報道で利用者が伸び悩んでいるとあったが、現状の課題は
- ⑰ 検証前に想定していたことと実際に運行してみて違っていた部分があるか
- ⑱ 導入するにあたっての課題

柏崎市

ひきこもり支援センター「アマ・テラス」について

- ① ひきこもり施策に着手することになったきっかけ
- ② 支援センター設立の経緯（一本化した経緯、どのような議論があったのか）
- ③ 相談件数
- ④ ひきこもり支援の対象者の属性（年齢、性別、ひきこもりになった原因）
- ⑤ ひきこもりになった原因別の対処方法はあるのか
- ⑥ ひきこもりからの社会復帰や復学はどのように行うのか
- ⑦ 相談以外の外出支援などは行っているのか
- ⑧ ヤングケアラーへの支援も検討されているのか
- ⑨ 国の重層的支援体制整備事業を活用されたのか
- ⑩ 今は SNSの方が直接電話よりも相談しやすいと言われるが、SNSによる相談は検討されているのか
- ⑪ アウトリーチ型支援はされているのか、されていればその内容とどのような方々が関わっておられるのか
- ⑫ ひきこもりの方への直接的な働きかけについて及び、アンケート（実態調査）で家族及び本人と答えた方へのアプローチの現状について
- ⑬ （親族からの相談以外に）ひきこもり状態にある方をどのように発見するのか

- ⑭ センター内で各関係機関と行政はどのように連携（情報共有）しているのか
- ⑮ ひきこもりに関する実態調査報告書について
 - ア 調査を行うようになった経緯
 - イ 個人情報問題はなかったのか
 - ウ 調査の結果、特筆すべき点は？（調査するまで想定していなかったことなど）
 - エ 支援の有無と種類について、不明が多い理由は何だと考えるのか
- ⑯ 相談支援以外の支援について
- ⑰ 今後の次の展開について

4. 所感

(1) のりあいタクシー（加茂市）

加茂市における「のりあいタクシー」は、三木市と類似のシステムにより、車両の配車や運行をしているが、三木市の場合は既存バス路線の周辺エリアからは乗降できないルールがある。

一方、加茂市の場合は市営バスの大部分を廃止してのスタートであり、民間事業者との競合が無く、市全域（一部市外を含む）で乗降できるという点は、利便性が高く、市の想定通りの利用者数となっている一因と考えられる。

タクシー事業者は、システムによって割り振られた配車要請を各車両のタブレット端末を通じて直接指示を受け、通常業務中のタクシーをそのまま「のりあいタクシー」として運行できることから、人件費、車両代等の費用が抑えられる点は非常に効率が良いと感じた。

効率的なシステムや既存バス路線での乗降ルールが無いことに加え、市民以外も利用可能となっている加茂市の取り組みを参考に、三木市のデマンド交通においても、交通事業者と協議を行い、乗車エリアの制限緩和などを進めることで、公共交通全体の利用者を増やす仕掛けが必要であると感じた。

既存の公共交通を守っていく必要はあるものの、三木市における最適なデマンド型交通の在り方を検討するにあたり、参考になる部分があった。

(2) ひきこもり支援センター「アマ・テラス」（柏崎市）

センター設立の経緯として、以前からひきこもり対策担当を配置し、相談支援を行っていたが、市長の号令により、更なる取り組みを始められた。

センターでは現在 57 名の方に対して支援しており、柏崎市の現状ではひきこもり状態になった年齢は若年層が多く、比率的には男性のほうが多いが、現状把握のために令和 4 年 1 月に実施した実態調査では、約 120 名のひきこもり状態の方がおり、特にセンターでの支援が少ない 40 代、50 代の方が多いということが判明した。

ひきこもりは短期的に解決できるものではなく、本人の社会復帰のための環境整備、支援者、経済的自立が必要だということが理解できた。

センター職員についても、有資格者の確保が難しいことに加え、職員自身の業務に対する熱意や思いが無ければ難しいとのことであったが、説明いただいた担当者の「徹底してひとりに寄り添う」という熱い思いがセンター全体を引っ張っておられるのを感じた。

また、当事者交流会や家族の会、居場所支援、就労準備支援事業など支援の充実も素晴らしく、一方で、年齢的に就労自立を目指すのが難しい方に対しては、生活支援につないでいく形でゴールを設定するよう考慮されていた。

ひきこもりは同居の家族が亡くなるとすぐに生活が破綻し、極めて厳しい状況に陥る重大な問題である。

実態調査の実施や相談及び支援体制の構築といった柏崎市の取り組みを参考に、三木市における現状の取り組みを確認することが必要であると感じた。